

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

№1778 長期前兆続報 PBF特異静穏化認識 対応地震 2026年 2/3±5 発生の可能性

◆HPでの№1778長期継続前兆変動についての更新が多忙により、長期に渡り更新できませんでしたこと、深くお詫び申し上げます。

◆東北沖での大型地震の可能性前兆変動が観測され、多数の観測情報を配信しました。結果は三陸沖での群発的プレート境界型地震でしたが、通常地震経験則で発生時期を推定致しましたが、前兆変動初現～変動極大に至る日数の半分の日数を極大日に加算する「群発地震経験則」（この場合は11/8±2発生となる）での発生となりました。推定した地震活動はトータルで断層長約350kmを推定致しましたが、実際は11/8～11/12までで各地震の断層長計320kmほど（Log Lkm=0.5M-1.8 Utsu.式使用）で綺麗に調和致しました。その後、再び前兆変動が観測されていますが本HPでは公開できません。E-mail・FAXで配信の観測情報では公開しています。ぜひご参加下さい。

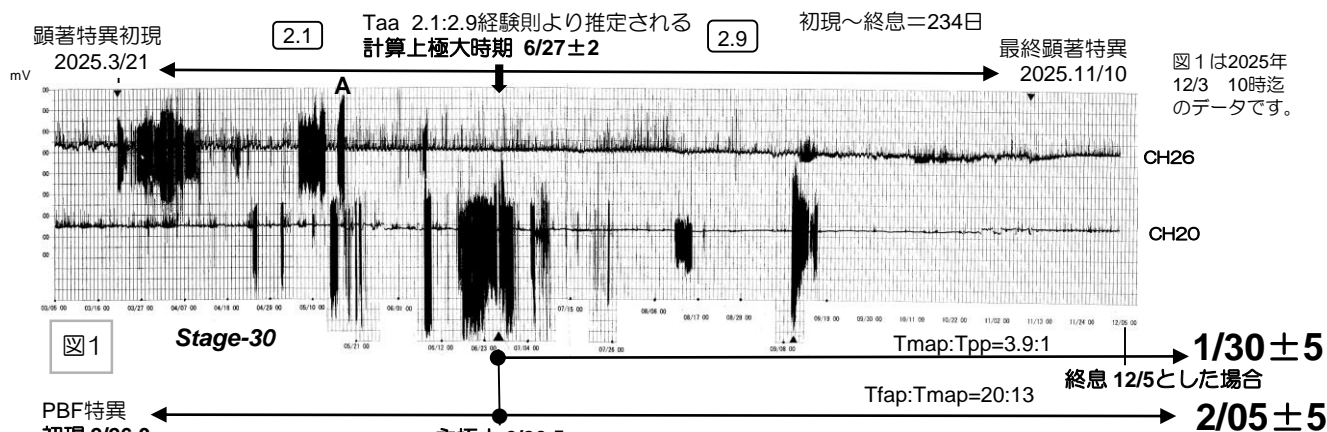


図1は2025年12/3 10時迄のデータです。

図2

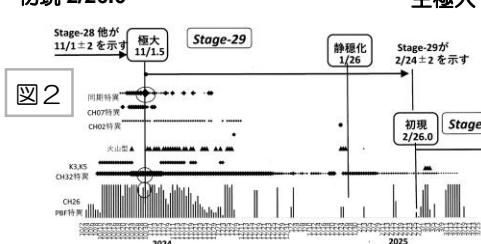
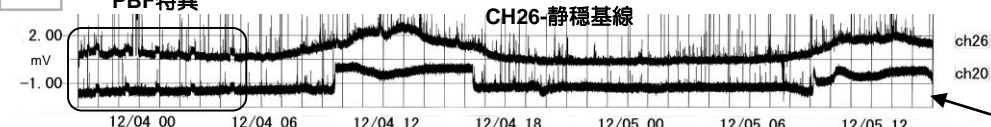
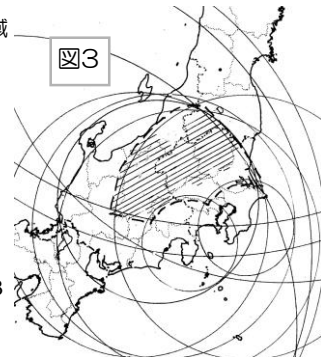


図4



- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：M8.0±0.3
単発の場合＝M8.0±0.3
複合の場合＝M7.4±0.3+M7.3±0.3 他等
- 推定時期：2026.2/3±5 の可能性
または2/5±3
- ※今後の観測で修正の可能性有
- 推定地震：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3



CH26・CH20共に12/4朝5時以降はPBF特異出現なし。CH20基線に段差変動があるが、12/9±2で無くなれば、完全静穏化で、2/5±3発生となる可能性もある。CH26のゆったりした変動は日周変化。

◆№1778長期継続前兆変動の現在Stage-30は主として、ハヶ岳のCH26・CH20の顕著特異変動（図1参照）と、両観測装置のPBF特異変動（図4参照）です。顕著特異変動の極大は前の更新情報では図1上基線CH26のAを極大の可能性と考えておりましたが、図1上部記載のとおり、顕著変動初現と終息をTaa（前兆期間）とした場合、前兆変動全体または顕著部でも初現～極大:極大～終息の比が2.1:2.9となる経験則で2025.6/27頃に極大がある可能性が示唆され、実際にあるCH20の6/26.5を極大と再認識しました。

◆この極大に対し、初現（PBF特異）は図2の2024～2025のStage-29が示す、2025.2/26である可能性があります。これを初現とし、極大を2025.6/26.5とし、Tfap:Tmap=20:13経験則で計算しますと、2026.2/5が示されます。

◆継続していたCH26とCH20のPBF特異は、図4のとおり、12/4の朝05時以降、出現がありません。現在12/5の午後04時過ぎですが、現在まで35時間以上PBF特異変動の再出現は認められません。今までに15時間程度の静穏基線は観測しましたが、35時間を超える出現無しは初めてで、PBF特異が静穏化した可能性が濃厚です。仮に12/5に静穏化したとして、Tmap:Tpp=3.9:1経験則を使用しますと、2026.1/30が示されます。従いまして、現状では、№1778の対応地震発生は、2026年2/3±5時期である可能性が示唆されます。図4のCH20基線に段差変動が見えます。12/9±2にこの変動も消えれば、2/5±3発生の可能性もあります。直前変動が観測されれば、より正確な発生日を推定可能と考えます。変化は続報予定。

※配信の観測情報では既にこれらのことを詳しく週に数回の観測情報で報告しておりましたがHPでは遅くなり大変申し訳ございませんでした。